

復興ありがとうホストタウン（第五次）自治体について

平成 30 年 7 月 27 日

自治体 (相手国等)	受けた支援の概要	取り組もうとする事業の概要
岩手県山田町 (オランダ)	<ul style="list-style-type: none"> ・山田町とオランダは、江戸時代にオランダ船が山田湾に漂着した縁で現在も交流が続いており、オランダ船が漂着した湾内にある島は、通称「オランダ島」と呼ばれている。 ・平成 26 年 5 月 24 日、東日本大震災で被災した山田町を支援するためオランダ関係企業・団体により結成された「一般社団法人オランダ島」から、山田町は、放課後児童クラブ「オランダ島ハウス」の寄贈を受けた。 ・現在、同クラブは、いまだ仮設住宅暮らしを余儀なくされている地域の子どもたちが、落ち着いて勉強ができ、また、帰宅後に存分に遊べる場として利用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オランダ島ハウス寄贈などの支援をくださった「一般社団法人オランダ島」の関係者の方々や、日本在住のオランダの子どもたち及びその家族を「オランダ島ハウス」に招待し、山田町の子どもたちがオランダの歴史文化について学習した成果を発表する。また、地域の文化・伝統を知ってもらえるような行事や復興状況が分かる語り部ツアーに招待する。 ・オランダのパラリンピアンなどに、町民 に対して、スポーツの楽しさや共生社会の実現に関する講演を行ってもらう。 ・東京大会の期間中、「オランダ島ハウス」で山田町の子どもたちがオランダ選手を応援する。 ・「一般社団法人オランダ島」関係者と連携し、町民有志による東京大会会場へのオランダ選手応援ツアーを実施する。

<p>宮城県気仙沼市（インドネシア）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 23 年 6 月にインドネシアのユドヨノ大統領が気仙沼市を訪問し、仮設住宅にて被災者を激励したほか、東日本大震災からの災害復興資金として 200 万ドル（約 1 億 6 千万円）の寄付目録の贈呈を受けた。 ・寄付金は、地震の被害により使用できなくなった気仙沼図書館の建設費の一部として活用され、平成 30 年 3 月 31 日に開館、市民に広く利用されている。同館内の児童図書エリアの名称を「ユドヨノ友好こども館」と名付け、インドネシアからの震災復興支援の象徴としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インドネシアの子ども達を招き、震災遺構の見学や本市の復興状況を発信。 ・震災以前から地元のインドネシアの方が参加パレードを行っている気仙沼みなとまつりに、インドネシアの大使や子どもたちを招待し、交流。 ・図書館利用者の笑顔の写真によるモザイクアートを作成し、インドネシア大使館へ贈り支援に対する感謝を表す。 ・インドネシアからの技能実習生と市民との交流事業を実施。 ・インバウンドの対象国として観光、旅行関係者の招待とモニターツアーの実施。 ・大会期間中、市内の小中学生を対象にインドネシア選手団の応援ツアーを実施。 ・大会終了後、インドネシア選手団を招き、住民との交流会等を開催する。
------------------------	---	--

<p>福島県喜多方市（米国）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和 63 年に、アメリカ合衆国オレゴン州ウィルソンビル市と姉妹都市となって以降、中高生の研修使節団の受入と派遣を隔年で実施し、市民レベルでの交流を重ねてきた。 ・平成 23 年の東日本大震災及び原子力発電所の事故に際し、姉妹都市交流に参加したウィルソンビル市のホストファミリーから喜多方市の元研修生に励ましのメッセージが寄せられる等激励を受けた。同年 11 月には、ウィルソンビル市姉妹都市協会と会津喜多方国際交流協会を通じて、ウィルソンビル市民等からの激励のメッセージと寄付を受けた。 ・メッセージは避難所に掲示して紹介され、多くの避難者や市民が勇気づけられ、復興への励みとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィルソンビル市の中高生等を招き、スポーツや食、文化などの体験交流を通じて、福島県及び本市の復興状況を発信していく。 ・相手国のボート協会や体操協会などの競技団体やスポーツ団体の関係者を招き、本市の体育施設等の視察や、食、文化などのおもてなしを通じて、大会後のスポーツ交流事業の実施を働きかける。 ・オレゴン州駐日代表部と連携し、講演会やイベントを開催し、相手国への応援ムードを高めていく。 ・東京大会の期間中は、市庁舎等に応援幕等を設置するとともに、相手国の試合をパブリックビューイングで放映し、市民をあげて相手国チームを応援する。 ・大会に参加した選手や関係者を競技終了後に招き、スポーツや食、文化などでの市民との交流イベントを開催する。
---------------------------	--	--